

校内研究（校内研修計画）

1 研究主題

きき合い、学び合い、支え合う児童の育成 ～学びの質を高める課題設定と授業展開の工夫を通して～

2 主題設定の理由

中央教育審議会の答申を受け、平成 29 年 3 月公示の新学習指導要領が改定された。これからの社会においては、身の回りに生じる様々な問題に自ら立ち向かい、その解決に向けて異なる多様な他者と協働して力を合わせながら、それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力をもった人材が求められている。こうした新しい社会で活躍できる人材の育成に向けては、「何ができるようになるか」が重要であり、そのために「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」が今まで以上に大切になってくる。学習指導要領においては『知識及び技能』の習得と『思考力、判断力、表現力等』の育成、『学びに向かう力、人間性等』の涵養という、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるよう留意する」とある。

本校では「学びの共同体」の理念をもとに研修を重ね日々の授業に取り組んできた。それにより、対話を通して学習を深めていく姿勢・風土が定着しつつある。また、小規模校の特性を生かした授業改善や集合学習・交流学习・合同学習や個に応じた指導等で生きる力（学力向上）を育んできた。一方、課題については、目的意識が希薄で学びに向かう力が十分に備わっているとは言えない子もいる。我々教師が「達成感のある授業」をいかに仕組むかが、今、求められている。

そこで、日々の授業で「なぜ?」「知りたい」「分かりたい」などの主体的な解決に向かうような課題設定の工夫、学び合う場面の設定、振り返り等の授業デザインをイメージ・実践することで、児童一人一人の学びに向かう力や、対話を中心とした探求的態度を育むことが重要と考える。授業終末における“振り返り”による自己変容を自覚する場面を大事にしたい。各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる授業を仕組むことで、児童一人ひとりの“学び”の広がりや深まりが促進され则认为。昨年に続き「学びの共同体」の理念に基づく授業づくりを重ね、きき合い、学び合い、支え合う児童の育成をめざし、本主題を設定した。

3 研究仮説

学びの共同体の理念のもと、一人一人の良さを認め合える関係づくりと学びの質を高める課題設定（授業デザインや発問、ジャンプ問題の設定）を工夫して実践すれば、きき合い、学び合い、支え合う児童の育成ができるであろう。

4 研究の方針

- (1) 学校教育目標の具現化のため、校内研修と学力向上推進を一体的に捉え、組織的・計画的に研究活動を推進する。
- (2) 全職員の共通理解のもとに研究を進める。
- (3) 児童を多面的・総合的に理解するために、学級担任による観察や面接に加えて、教科担任、養護教諭、スクールカウンセラー等による広い視野から児童理解を行う。
- (4) 「学びの共同体」の理念を推進するため、村教育委員会の指導主事を招聘しての授業研究会を持つ。
- (5) 学期毎に一人1回、村教委指定の授業デザインシートを活用し、互見授業を実践する。
(へき地3校の合同学習時に実施しても良い)
- (6) 同僚性と授業の質を高めるために、授業参観者は、必ずアドバイスや授業における参観者の

気づきを話すようにする。

(7) 子どもの学びの様子から授業をふり返し、授業力向上を図る。

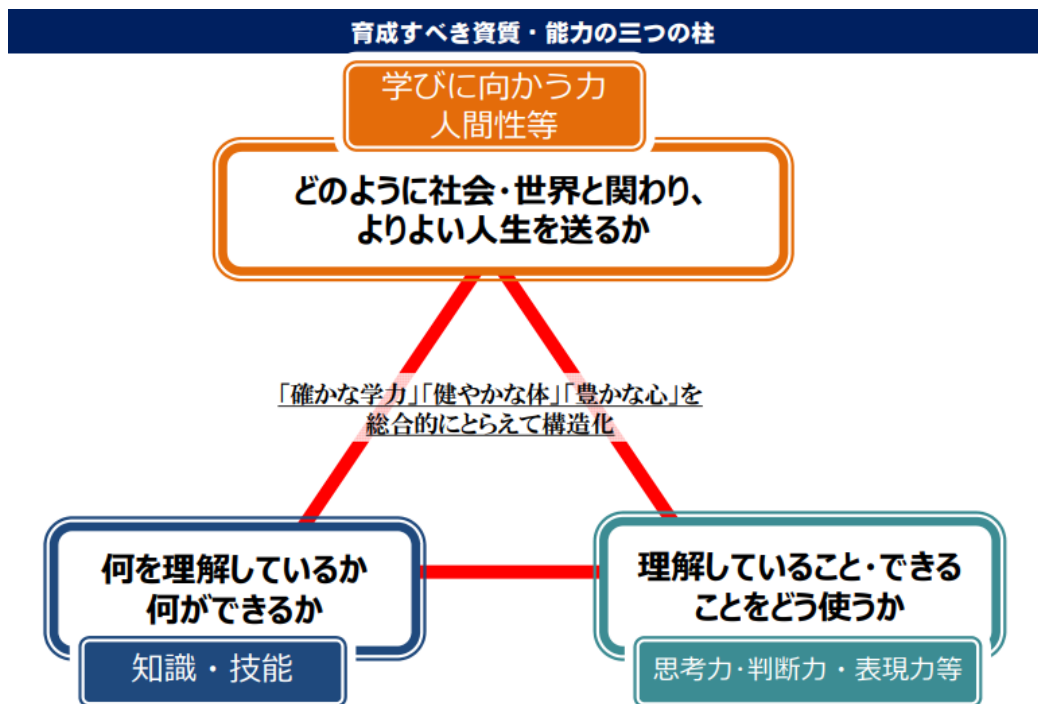
(8) 校内研修は研究テーマ設定による研修、及び教育課題に対する職員の見識を高める研修を実施する。

(9) 各学年・学級に応じた手立てを考え、学級内での支持的な風土や「学びに向かう」集団づくりを研究する。

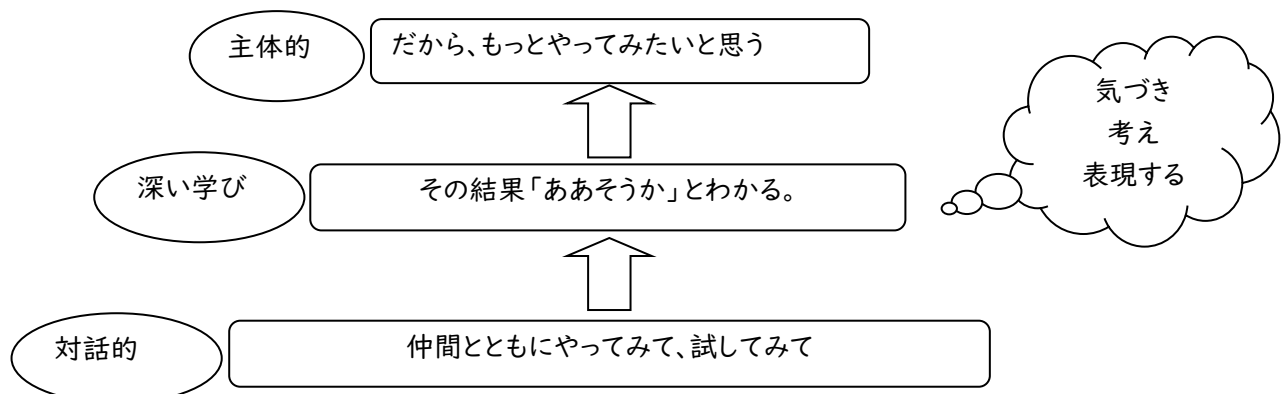
(10) 主事（国頭教育事務所）要請授業研究会の2週間前には、全員で指導案検討会を持ち、助言やアドバイスをを行う。

5 研究の方向性

学習指導要領においては育成すべき資質・能力を以下の3つの柱で整理し、知識・理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。



(1) 「アクティブラーニング」の3つの視点からの学習過程の質的改善



6 研究の内容

(1) 「学びの共同体」についての理論研究

①心がける・・・授業デザインへ向けての心構え

②氣にかける・・・授業中に子どもたちの様子を見る視点

	① 心 が け る	② 氣 に か け る (見取る)
学びの成立のために 主体的	◎子どもの「なぜ?」「どうして?」などの子どもの「問い」を大切にする。 ◎深い学びにつながる発問の工夫。 ◎自分で解決に向かったり、仲間と一緒に考えたりする時間の設定。 ◎子どもが挑戦したくなるような問題の工夫。 ◎教師や仲間の発言の後に、しっかり考える間を与える。	→他者の発言やテキストから自分なりの「問い」や考えが持てているか? →課題やテーマとのつながり。 →困難な課題に向かう意思を持って臨んでいるか。 →夢中になって解決に向かっているか。 →子どもの「問いや疑問」に教師がすぐに反応しないで仲間につなぐ。
学びの成立のために 対話的	◎子どもが互いの考えや意見を「きき合い」自分の考えを吟味する、対話による学び合いの時間の設定。⇒(グループ、ペア) ◎子どもの表情やしぐさ、つぶやきを見取るようにする。(子どもの困り感に寄り添う) ◎課題や問題に対して仲間と吟味し、自分なりの見方や考え方の深まりや広がりを持たせる。	→グループやペアで「きき合い」が成立しているか? 「言い合い」になっていないか? →対話に消極的な子どもは、意図的に教師が仲間につなぐ。 →「分からない」こと、「分かりたい」ことなどの対話の質を見取る。
深い学びの成立のために	◎授業の終末に意識を向け、丁寧な授業の「振り返り」を行う。 ・文章に書いて振り返る ・ペア・グループの「学び合い」と作文による「振り返り」をつないで、学びを深める ◎本時のねらいと照らし合わせる ◎余韻が感じられる終末を用意する。 充実感 すがすがしさ、気持ちよかった等 達成感 「できた・できそうだ」の実感 自己有能感 自分自身の成長の実感 一体感 協同的に学び合うよさや楽しさ	→「振り返り」の三つの視点につなげる ・学習内容の確認 ・関係付けや一般化 ・自己変容の自覚 →その日の授業が目指すねらいに対して、目の前の子供の姿はどのような状況なのか、照らし合わせたら、即座に判断する。 →「深い学び」の子供の姿を、具体的に語る(見取る力)ことが重要となる。 ・評価規準をもつ ・時間軸で子供の姿をつなぐ ・空間軸で子供の姿をつなぐ

③教師と子どもの関係、子どもと子どもの関係

「分からないこと」を依存できているか?

依存されたら、寄り添って対応しているか?

④教師の指導技術・・・教師の学習指導を「発信」から「受信」に変える

- 発問・・・課題への誘い、思考するきっかけ、等
- 「学び合い」への『聴く』・『つなぐ』・『もどす』

その1『聴く』

- 発言やつぶやきが何を根拠に発せられたか
- テキストの資料のどことつながって発せられたか
- 以前の考えや発言とどうつながって発せられたか

その2『つなぐ』

- 学級の仲間とつなぐ
つぶやき、発言につなぐ
- テキストや資料とつなぐ
- 社会の事象や過去、未来とつなぐ

その3『もどす』

- 子どもがつまずいているとき
- ・テキスト、資料にもどす
- ・課題にもどす
- ・グループにもどす
- ・全体にもどす

ケアする

子どもの目、仕草、顔の表情や身体の動きから子どもの困り感やつまらなさ等を感じたら子どもの傍らでケアする。
教師によるケア・子ども同士によるケアの配慮

⑤課題設定のレベル、授業デザイン（流れ）、学びの質

- 課題は、学びの質、思考を深めるレベルになっているか？
- 授業のデザインに無駄や偏りはなかったか？

(2) 安田小学校 「学びのスタンダード」

「課題設定」「見通し」「対話」「振り返り」の場面を取り入れた授業の工夫

① 本時の課題提示

- 基本的な問題や課題
- まずは個人でトライ
いきづまったら個人作業の協同化へ
(つまづいた子をきっかけに学び合いが必然に発生するようにしたい)

○1回目のグループ活動

T:教師は、子どもと子どもの互いの学び合いを促し出過ぎない(子どもを見守る机間支援)

②全体でのすり合わせⅠ

- グループ内で学んだ学びを全体で共有する
- 全体の息づかいをあわせる(他のグループ内の考えとつなぐ)
- T:教師は、個の意見や考えを「聴く」こと「つなぐ」ことに気を配る

③2回目の課題提示

- ジャンプ問題(簡単には解けない問題)
- 2回目のグループ活動:高い課題に挑戦する場面(できそうでできない)
:レベルの高い上位層に合わせた問題や課題
- どれだけのレベルまで上げるか?教師の見取りがカギになる。
- ▲課題が簡単だとつまらなさを感じる。

T:学び合いが滞っていないか、グループと個人へのケアへ気を配る

④ 全体でのすり合わせⅡ ※振り返り場面を設定する

多様な考えをみんなで認め合い共感を図り、児童の「自己有能感」や「学びの達成感を共有したい」。
T:授業の反省や感想はできるだけ明日へのつなぎを考えさせ、さりげなく終わる(次へのつなぎ)

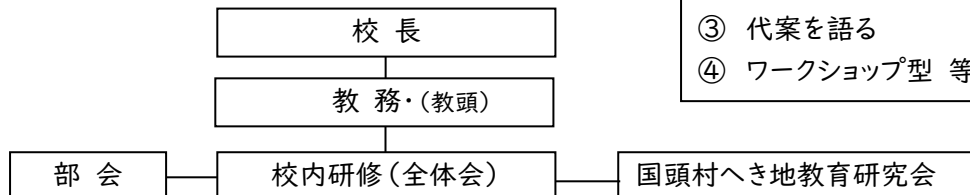
(3) 指導と評価の一体化を図る授業の工夫

- 主事招聘による公開授業
- 学期一回の互見授業

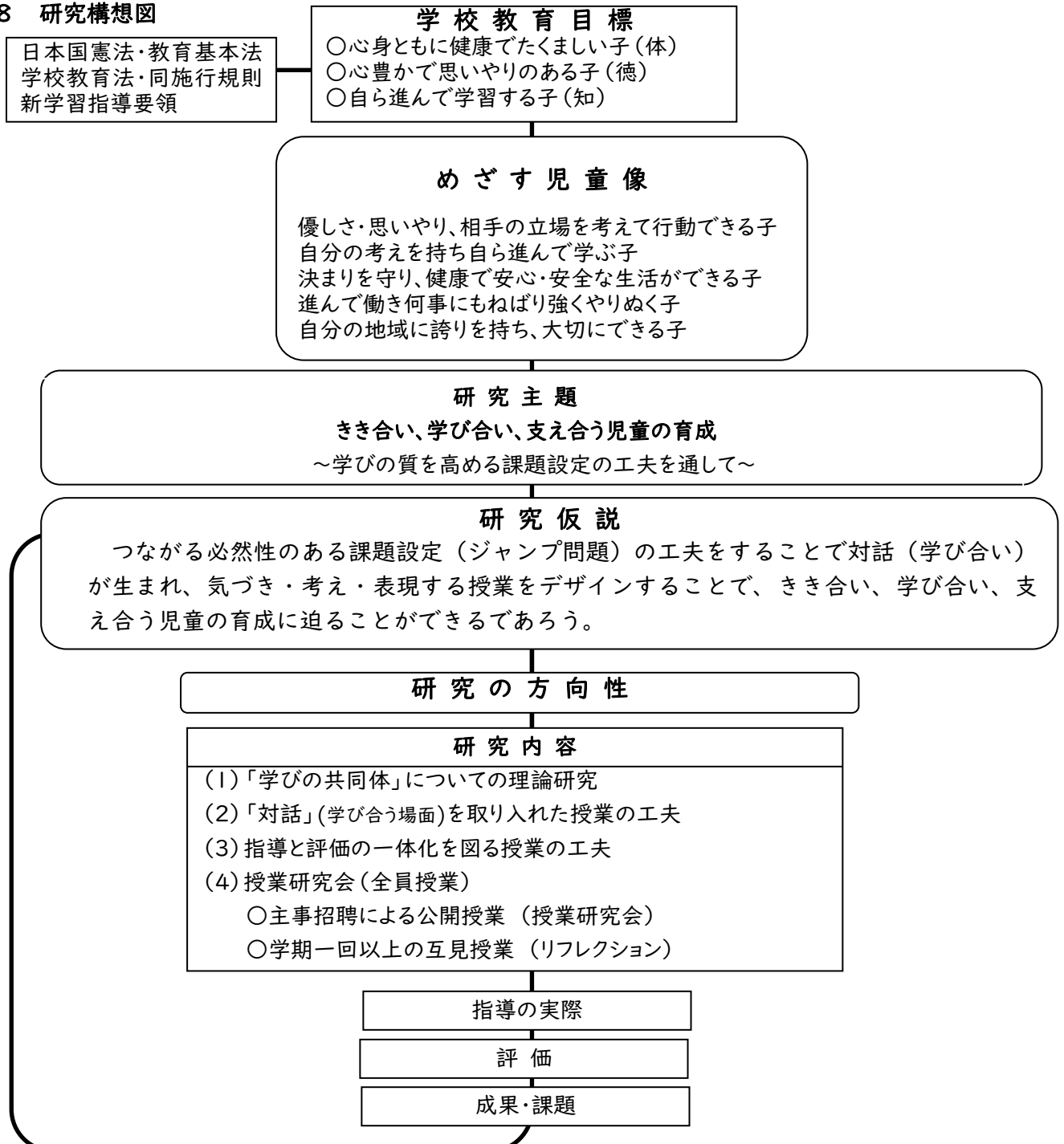
授業研究・協議会のポイント

- ① 子どもの「学び」を見取る力
(授業者・参観者等による省察)
- ② 固有名詞と事実で語る
- ③ 代案を語る
- ④ ワークショップ型 等

7 研究組織



8 研究構想図



9 研究年間計画

月	日	曜	研究及び研修内容	要請指導主事及び講師
4	2	木	村内教職員研修会「学びの共同体、教育長講話」	教育委員会
	3	金	校内研(テーマ・年間計画の確認、いじめ)	研究主任
	28	火	集合学習①(3・4校時:交通安全教室) 【5校時:モデル授業・リフレクション SV 招聘】	奥小学校
5	1	金	へき地3校授業内容検討会	奥小学校
6	2	火	集合学習②(SV 招聘)	安波小学校
	19	金	村内小学校交流学习	奥間小学校(教育長講話)
	24	水	救急救命講習(職員向け)	国頭消防署
7	23	木	午前:校内研(①全国学力調査の分析 ② 授業アイデア紹介③いじめ) 午後:3校職員協議会、学校保健委員会	学力向上推進担当 全職員 奥小学校
	24	金	村内教職員研修(自然遺産関連フィールドワーク)	教育委員会
9	1	火	集合学習⑦(薬物乱用防止教室)	安田小学校
	25	金	村内小学校交流学习	辺士名小学校(教育長講話)
11	9	月	集合学習⑧(へき地教育研究会活動報告会) 【5校時:焦点授業・リフレクション SV 招聘】	奥小学校
	18	水	校内授業研究会	国頭教育事務所主事
12	9	水	集合学習⑨(2～4校時:互見授業、性に関する学習)	安田小学校
1	14	木	校内研修の成果と課題のまとめについて 研究紀要の作成について	研究主任
	1/18(月)～1/29(金)メ切 校内研修の成果と課題についての回答期間			
2/1(月)～2/12(金)研究紀要印刷・製本				
2	4	木	集合学習⑩ 午前:焦点授業 午後:初任者研修	奥小学校 佐藤学先生招聘
	5	金	村内教職員研修会	佐藤学先生招聘
	25	木	校内研(研究紀要を確認及び配布)	研究主任
3	4	木	校内研(次年度の校内研修について)	研究主任

※主事(国頭教育事務所) 要請授業研究会は基本的に年1回実施する。

※互見授業の前にはデザインシートやジャンプ課題の検討会を行い授業に臨む。

※県立総合教育センターによる出前研修については、必要に応じて日程を決め実施する。

仮申込期間:4/20(月)~5/27(水)

10 授業を見る視点(子ども達の学びを見取るヒント)

(R3永嶋先生からの資料より)

- ① 先生の指示を聞いていない時間が長い子は誰か?何人か?なぜ聞けないのか?
- ② イントロの音になると、表情をしかめる子は誰か?何人か?
- ③ 最初の「線路は続くよ」の活動の中で、音を楽しんでいた子は誰か? どうやって判断したか? 具体的エピソードで 語ってください。
- ④ ペアが嫌できちんと活動できなかった子は誰か? 何人か?
- ⑤ 9 分から先生の話聞いていなかった子は誰か? 何人か?
- ⑥ 1 問 1 答にほぼ答えてない子は誰か? 何人か?
- ⑦ 体の動き、指いじり などが 大きくなったのは 誰の何分付近か? なぜそうなったのか?
- ⑧ 何もして居ない時間・ 待っている時間が 長い子は誰か? 何人か?
何分付近に多かったか?
- ⑨ 綺麗な音を出していた子は誰で、ただの単音や 乱暴な音になっていた子は誰で、それぞれ何人か? なぜそうしてしまったのだろうか?
- ⑩ 音を出している時間が短い子は誰か? 何人か?
- ⑪ 演奏が 作業的になってしまった子は誰か? 何人か? 演奏する行為を通じて、音を楽しんでいた子は誰か? 具体的なエピソードで語ってください。
- ⑫ ○○さんたちの発表を聞いていなかった子は誰か? 何人か?
- ⑬ グループ内の誰か 1 人が弾いている時、残りの子は何を学んでいたか。具体的エピソードで語ってください。
- ⑭ 話し合いて、ほぼ言葉を発して居ない子は誰か? 何人か?
- ⑮ 先生が個別支援をしている際、それ以外の子で 学んでいない子は誰で、何人だったか?
- ⑯ 新しい旋律がほぼ生まれなかったのはなぜか? 具体的エピソードで語ってください。
- ⑰ ○○さんからは、この授業、この教室はどのように見えていたか? 具体的エピソードで語ってください。
- ⑱ 学んでいなかった子が多かったのは何分付近か? 何人か?
- ⑲ 1 人残らず学んでいたのは何分付近か? どうやって判断したか?

Ⅱ 見取りシート 月 日() 年 教科() 授業者()

児童の学びの様子

児童の見取り(〇〇の場面で・・・だった)		考察・感想・手立て等
スタート		
5 分		
10 分		
15 分		
25 分		
30 分		
35 分		
40 分		
45 分		
分		延長対策

教師の学び

本日の授業を観る「視点」の共有

安田小学校

「主体的・対話的で深い学び」の授業の創造 ～学び合い・深め合う授業づくりを通して～

【授業観察の視点・研究協議での論点】

- ① 教室の雰囲気や子どもの様子 ⇒ 聴き合う・支え合う関係が成立していたか
教師と子どもの関係、子どもと子どもの関係
- ② 子どもの学びの成立 ⇒ ひとり残らず授業を投げ出さずに学びに参加していたか
「分からない」の解決に向かっていたか
「分かりたい」の探究に向かっていたか
- ③ 教師の指導技術 ⇒ 『 聴く・つなぐ・もどす』
発問の質、「間」の取り方、与え方、学び合いへのつなぎ
子どもの「つぶやき」を拾い、子どもへ「つなぐ」「もどす」
- ④ 課題設定のレベル ⇒ 共有課題とジャンプ課題のつながり
広がる、深まる、つながる必然性のレベルであったか
- ⑤ どこで学びが成立し、つまずいていたか

あなたの本日に授業における学びは何？

- ・授業研究会では子どもの固有名詞（名前）で話す。
- ・授業の見方を学んで、自己のスキルアップを目指す。

メ モ